令和４年度ブロック別研修会の取組　実施発表
土長南国南ブロック　吾岡保育園

１ 園の概要

〇園児数

１３４名

クラス編成と職員数（令和５年１月現在）

年齢 クラス名	０歳児 ぴよぴよ	１歳児 ひよこ	１歳児 あひる	２歳児 うぐいす	３歳児 はと	４歳児 つばめ	５歳児 ひばり
園児数	９名	１０名	１１名	２４名	２７名	２８名	２５名
職員数	３名	２名	２名	４名	３名 （看護師１含）	３名 （加配２含）	３名 （加配２含）
	その他：園長（１名）、主任（１名）、副主任（１名）、看護師（２名）、事務（３名）、給食（４名） 子育て支援センター「おひさま」（２名）、利用者支援「すまいる」（２名）パート職員（５名）						

〇法人理念　「生きるいのち」「輝くいのち」を育むために

〇保育目標　心豊かで、思いやりのある子ども

・好奇心をもって全身を使い、遊びに没頭する子ども

・必要な挨拶ができ、素直に人や物事に向き合う子ども

・共に生きてゆくために主体的に考えることのできる子ども

〇保育方針　一人ひとりの思いを受け止め、しっかりと主体性を育んでゆく保育

・人権を尊重し、一人ひとりの発達課題を丁寧に支援する保育

・人への基本的信頼感・自己肯定感や意欲を大切に育てる保育

・仏教的環境や文化に触れながら、豊かな情操を育てる保育

・家庭を支援しながら、共に育ちあう保育

２ 研修目標　　一人ひとりの笑顔が輝く環境構成と支援の在り方

育ってほしいと願う３つの力

１．体力や姿勢を維持する力がつき、生き生きと遊ぶ

２．言葉でやりとりをしながら人と関わる

３．主体的に生活や遊びに向かう

３ 研修目標設定の理由

子どもたちは総じて元気よく、いろいろなことに興味・関心を示し、人懐こく意欲的に遊ぶ姿が見られる。同時に苦手なこと、やりたくないことを避けたり、自己主張はするものの他者の話を聞いたり言葉で思いを伝え合う姿は、まだ幼児期の発達半ばの姿が展開されている。

長期にわたるコロナの影響、動画サイトの視聴の増加や生活リズムの課題、食事の時間の姿勢保持や体力等、従来よりも配慮事項が多く、家庭との連携も更に重要となっている。

そこで、子どもたち一人ひとりの個性を意識し、笑顔と安心を基盤としながら、特に上記の３つに視点をおいて養護と教育が一体となって展開される保育園の生活と遊びの質について職員全員で研究することにした。

４年間取組内容

４月･･･園内協議・今年度のテーマ決定と共通理解
５月･･･研修の方向性についての共有化
親育ち研修 講話Ⅰ「高知県の保護者と共に特に育みたい資質、能力について」の理解
６月･･･園内研修（４歳児公開保育と研究協議）
８月･･･園内研修（３歳児の公開保育と研究協議）
南国市人権教育研究大会において同テーマで人権に視点をおいたレポートの発表
１０月･･･園内研修（１～２歳児の公開保育と研究協議）
１１月･･･保小合同研修（５歳児の公開保育と協議）
１２月･･･１～５歳児クラス公開保育・研究協議
１月･･･研究目標に基づいた成果の振り返り
２月･･･13ブロック交流会
３月･･･総括・次年度に向けての取り組みについて（予定）

5 成果

①子どもの姿の変容

・計画性をもって、運動遊び、リズム運動を続けたことで、幼児組は以前より体の使い方が巧みになり、体を動かして楽しむことが多くなった。全体的に以前より積極的に戸外で遊ぼうとする子どもが増えた。

・手作りおもちゃを定期的に作り、発達に応じたおもちゃや造形遊びの素材、教材研究を意識し、子どもの遊びに応じて環境を工夫することで、子どもたちの遊びの発想、創造力も豊かになり、遊び込むことが多くなった。「またこれで遊ぼう！」と自己決定する場も多くみられるようになった。

・特に生活の場面で、保育者が先回りしすぎたりやりっぱなしにさせたりせず、最後まで見届けて子どもが考えたり決めたりできるようにしてきた。一人ひとりに丁寧な関わりをもつことを心掛けたことで、子ども自身が見通しをもって「～しよう」とする姿が見られだした。

・子ども一人ひとりが安心できる居場所であるよう意識してきた。おとなしく内に秘めた思いを出せない子どもにも温かい言葉使いに気を付け、分かるように伝えることを心掛けたことで、自分の思いを言葉にして伝えることが増え、自己表出する子どもが増えた。また遊びの中でも対話や、やり取りを楽しむことも少しずつ見られるようになった。

５ 成果

②研修体制に係る内容

・指導計画のねらいを意識して、毎日の保育を振り返る習慣ができた。視点をもって振り返ることの重要性を学んだ。

・何度も話し合いを重ねてきたことで、組織として共通目標に向かって保育を考え合う意識が高まった。

・協議を行う中で、司会、進行を代り合って務めたことで、討議、進行役のスキルアップにつながった。

・保育を公開するクラスの子供の姿から毎回事前に課題を話し合い、解決に向けた協議を模索しながら計画･実行することで、グループ協議の際に今後の保育に生かせる具体的な環境構成や保育者の援助等が出され、チームワークもさらに深まった。

５ 成果

③保育者の意識や保育実践の変容

・子どもを肯定的に見ていこうとする意識をもち、子どもの学びの姿に目が向くようになってきた。また、一人の子どもに注目して保育を見ていったことについて、具体的な支援方法を見付けることができた。

・少しの時間でも、クラス内で（複数担任間）保育について今まで以上に話し合う時間を増やした。この時間を重ねることで環境構成をどうしていけばよいかなど、ＰＤＣＡサイクルを意識して次につながる手立てを考えられるようになってきた。

・ドキュメンテーション等にて保育を発信し、家庭にも園全体にもプリント化して回覧する等、クラスに捉われず子どもの姿を伝え合うことで、職員全体の子どもの育ちへの理解が高まった。

5　成果

④公開保育を行って

・指導案やねらいについて意見を交わし合う中で、今まで見えていなかった子どもの姿や気付いていなかった育ちが見えた。

・職員間で環境構成や言葉のかけ方、支援方法を話し合う場をもてたことで、多方面から保育を見ることができた。またグループ協議では、様々な支援の方法を学ぶことができた。

６ 来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

・姿勢や体幹を強くすることなどは意識をして日々積み重ね、引き続き子どもたちの体力づくりをする。日々の生活の中で正しい姿勢を知らせる。また保育士もモデルとして健康生活を送る。

・遊びや生活の中で、自信がなかったり困り感のある子どもも、自ら関わりやすい、分かりやすい環境を増やし満足感や達成感をもてるようにしていきたい。

・友達と会話をし、思いを伝え合い認め合う仲間づくりを目指したい。言語力やコミュニケーション力をさらにつけていきたい。

・配慮がいる子どもが多いが、どの子も笑顔で過ごしていくため、課題ばかりでなく、その要因と共にその子の良さに注目していく。

６ 来年度に向けて

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

・実践に結び付く、活かせるカリキュラムになるよう見直していきたい。また発達に沿った教材研究などにも取り組み、実践につなげ、子どもの変容もしっかりとみていくようにする。

・今年ICTシステムを導入し、保育計画を共有し、保育に関する発信をしてきた。そのメリットを更に生かし、園全体で研修を進めてきたことなども保護者にも発信しながら活用したい。

・今回、職員間で語り合いを重ねることの重要性を学んだので、時間の管理をしながら、職員間の対話を大事にして、次年度も引き続き、質の向上を図りたい。